

前期・後期あわせて、漫画原画500枚以上

カラーイラスト、挿絵原画、絵本原画、資料等も多数展示！

《百一 hyakuichi》
カバーイラスト、2021年
©この史代/日本文芸社



《この世界の片隅に》2007年 ©この史代/コアミックス



《夕風の街 桜の国》
カバーイラスト、2004年
©この史代/コアミックス



《空色心経》
カバーイラスト、2025年
©この史代/朝日新聞出版

《長い道》2001年
©この史代/コアミックス

『夕風の街 桜の国』

(手塚治虫文化賞新生賞、文化庁メディア芸術祭マンガ部門大賞)

『この世界の片隅に』(文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞)で知られる、 この史代の全貌に迫る初の大規模原画展ついに開催！

この史代(1968-)は、漫画というフィールドで、実に多彩な表現活動をしてきました。お花屋さんが舞台のコミカルなショートストーリー連載『街角花だより』(1995)でデビューし、インコとの日常を描く4コマ漫画『ぴっぴら帳』(1997-2004)で人気を博します。ニワトリと少女のユニークな日々を綴った『こっこさん』(1999-2001)も忘れることはできません。“命あるものと共にある日常”を見つめた、これら初期作品の世界観があって、『夕風の街 桜の国』(2003/2004)、『この世界の片隅に』(2006-2009)へつながっていくこととなります。

もちろん、それは到達点ではありません。この史代はさらに先へ進みます。漫画という表現に、誰よりも強い好奇心を持っているからです。

非凡なアイデア満載の『平凡倶楽部』(2006-2010)で読者を驚かせたかと思えば、『ぼおるべん古事記』(2011-2012)ではボールペンだけで『古事記』を忠実に漫画化しました。東日本大震災の翌年から連載を開始した『日の鳥』(2012-)は、妻を探す雄鶏の目を借りて、移りゆく時の流れをスケッチしています。

漫符を素材にした画期的な漫画図鑑『ギガタウン 漫符図譜』(2015-2017)、『百人一首』と遊んだ華麗なカラー1コマ漫画『百一 hyakuichi』(2018-2020)、『般若心経』をコロナ禍と重ね、2色の線が絡み合う最新長編『空色心経』(2023-2025)など、新しい漫画の可能性へ向けて、挑戦は続きます。この史代の特徴として、アシスタントを使っていないことが挙げられます。そのため、どの線にも彼女の気持ちがかもっています。たった一人で描いた「一枚の絵」として原画を見ることで、これまで気づけなかった線の魅力、色の力を感じていただけることでしょう。

本展では、10代の時の作品から最新作まで、500枚以上の漫画原画を展示します。そのほかデビュー以前の貴重な資料の数々、膨大な挿絵原画、絵本原画、ブログ「この日の日々」に登場するスケッチブック、執筆風景を記録した初公開の映像など、この史代の画業のすべてがわかる展覧会です。会場の広さの都合から、前期と後期で、ほとんどの作品を展示替える予定です*。見ていただくには、少し面倒をかけてしまいます。でも、この姫路文学館から初めて展示される、今年連載が始まった漫画原画の展示もご紹介します。前期後期、どちらを見てくださいとも、充実の内容です！(もちろん、両方見ていただくのもうれしいです！)楽しみに待っていてください。

*前期後期の展示リストは姫路文学館ホームページで公開予定です。



《ぼおるべん古事記 一天の巻》
表紙イラスト、2011年
©この史代/平凡社



この史代 profile

1968年生まれ。広島大学中退。放送大学卒。1995年漫画家デビュー。『長い道』『さんさん録』『空色心経』など作品多数。『夕風の街 桜の国』で多くの読者に感動をもたらす。アニメーション映画『この世界の片隅に』(監督:片淵須直)が大ヒットを記録。最新刊に『ヒジヤマさん 星の音 森のうた この史代短編集』。現在「小説新潮」で、1ページ漫画『かくやサン』を、「週刊漫画ゴラク」で『日の鳥』に連なる新作漫画『イメル・フリル』を連載中。ブログ「この日の日々」では日々の写真やスケッチを公開している。

日々の写真やスケッチを公開中！
ブログ「この日の日々」▶



コラボメニュー、
スタンプコーナーも
あるよ！



記念イベント ※申し込み不要

このさんがライブペインティングをするよ！

日時/4月18日(土)13:00頃〜17:00頃
(少し早かったり、逆に遅く描き始めたりするかも。休憩もするのでもないときもあります。)
場所/望景亭 和室(イスはありません) ©随時見学自由

講演『『ぼおるべん古事記』で読み解く『古事記』の世界』友の会協賛事業

講師/兼岡理恵(千葉大学大学院人文科学研究科教授)
日時/5月9日(土)13:30〜15:00(開場 13:00)
場所/講堂(北館3階) 定員/100名
参加費/500円(友の会会員と18歳未満は無料)

『百一』一日会

この史代版百人一首1コマ漫画『百一』の全原画を1日だけ展示する初めての試みです！
日時/5月9日(土)9:00〜17:00
場所/望景亭 ©随時見学自由

映画『夕風の街 桜の国』上映会

原作:この史代 監督:佐々部清
主演:田中麗奈 麻生久美子 2007年制作、118分
日時/5月24日(日) ①10:30〜12:30
②13:30〜15:30(開場 各30分前)
場所/講堂(北館3階) 定員/各回100名
◎観覧券(使用済み半券・デジタルチケット可)が必要(18歳未満を除く)

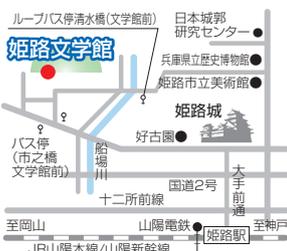
講演『『空色心経』の舞台『般若心経』のところに触れる』

講師/大樹玄承(書寫山園教寺 第四百十一世長吏)
日時/6月13日(土)13:30〜15:00(開場 13:00)
場所/講堂(北館3階) 定員/100名
◎観覧券(使用済み半券・デジタルチケット可)が必要(18歳未満を除く)

このさんがおしゃべりするよ！

出演/この史代、福永信(本展監修者/小説家)
日時/6月14日(日)13:30〜15:00(開場 13:00)
場所/講堂(北館3階) 定員/100名
◎観覧券(使用済み半券・デジタルチケット可)が必要(18歳未満を除く)

何をしゃべりするかは
お楽しみに！



姫路文学館へのアクセス

- JR山陽電鉄姫路駅より神姫バス9-10-17-18番のりば(一部停車しない系統があります。ご確認ください)で乗車約6分、「市之橋文学館前」下車、北へ徒歩約4分。6番のりば城周回観光ループバス(乗車約10分、「清水橋(文学館前)」下車、西へ徒歩約3分)
- 山陽自動車道姫路東ICあるいは姫路西IC。下車約20分 ●姫路バイパス中地ランプ下車約15分

二次元コードを読み込んで簡単アクセス
姫路文学館公式アカウントで情報を発信中!

ご来館の際の注意 ●展示会場の混雑を緩和するため、入場規制を行う場合があります。●駐車場の台数には限りがあります。公共交通機関のご利用にご協力ください。●最新情報は当館ホームページなどでご確認ください。